

平成 28 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	06	01	03	164110	地産地消推進事業
総合計画	分野	しごと			
	政策	1-1	農林業の振興		
	施策	1	農業生産の支援		
目的	産地直売所の連携による地産地消の推進				
対象	市内産地特売所				
意図	産地直売所が消費者ニーズの把握や農産物の品質向上、品揃えの充実を図り、加工や販売等の協体制を整備する。				
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること				
○産地直売所連携支援（継続） 産地直売所連絡協議会の活動に要する経費を補助 新たに花巻市産直スタンプラリーを実施（2回）					
市民参画の有無	[ ]				
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会		事業協力・協定	
	後援・協賛	○補助・助成	委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）	単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
① 講習会・研修会開催回数	回数	計画	2	2	
		実績	2	2	
②		計画			
		実績			
③		計画			
		実績			
成果指標（上記「意図」に対応）	単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
① 産直での商品購入者数	千人	目標	811	812	
		実績	745	742	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			
成果指標の達成度	目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
各産地直売所で客寄せのイベントを行うなど努力はしているものの、引き続き放射能の影響により、山菜やきのこ類等の販売が思うようにできない状況であるが、新たに始める産直スタンプラリーでの来場者数増を見込んだものとした。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	産直協議会事務局は協議会の構成組織が行い、商品の品質、販売加工技術のレベルアップを図る事業を行っている。また、協議会未加入の産直へも加入の声掛けを行っている。市内各団体との連携を広く図る。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	平成28年度より新たに産直スタンプラリーを予定しており、産直への来場者数の向上を図る。より多くの人へ花巻産食材の良さを知らせることができ、消費拡大の余地がある。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	協議会事業費の1/2以内の補助であり、事業効果を発揮させるため最低限の補助額である。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	協議会事業費の1/2以上を事業参加者からの負担金や各組織からの年会費で運営している。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
○ 適正である		
総合評価 …上記評価結果の総括		
産地直売所間の連携を強め、「魅力ある花巻市の産直」づくりを目指すために必要な事業を行い、消費者との交流を図りながら地産地消の推進及び花巻産農産物の販売拡大につなげる。協議会未加入の産直への加入促進を強化し、新たな産直スタンプラリーも予定しており、産直への来場者数の向上を図り、地産地消推進という目的に沿っている。		

平成 28 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-ト	事業名
一般	06	01	03	164110	地産地消推進事業

単位：千円

		27年度 決算額(A)	28年度 決算額(B)	29年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		300	300		
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	300	300		

事業期間	<input type="radio"/> 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	-----------------------------	------	-----------------

部重点施策における目標

収益性の高い農畜産物の生産を進める

事業開始の背景・経緯

農家所得の向上や地産地消を推進するために、産地直売所は欠くことのできない施設である。消費者ニーズに応える産直づくりを行っていくためには相互の情報交換や生産・販売技術の習得が必要なことから支援を行うこととした。

事業概要

○産地直売所連携支援（継続）  
産地直売所連絡協議会の活動に要する経費を補助  
新たに花巻市産直スタンプラリーを実施（2回）

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

・引き続き原発事故に折る放射能の影響で、山菜やきのこ類が思うように販売できない。  
・協議会に加入していない産地直売所へも協議会活動の情報を流し加入を促すとともに、情報の共有化や商品販売技術等の研さんを進め、商品の多様化を図る。  
・新たに産直スタンプラリーを予定しており、産直への来場者数の増加を図るとともに地産地消を推進する。

担当部署 部名 農林部 課名 農政課 担当係長 伊藤聡美知 内線 6-284

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。  
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

■産地直売所連携支援 300千円

市（補助金300千円）



花巻市産地直売所連絡協議会

■構成組織 10組織

- ・農産物直売所「母ちゃんハウスだあすこ」・やえはた産直すまいる
- ・はなまき特産物直売所「すぎの樹」・産直あおぞら
- ・宮野目特産物直売所「案山子」・産直未来路
- ・産直ハウスしぜん家
- ・大迫産直センターアスタ
- ・上台産直センター「どりーむ」
- ・道の駅石鳥谷農産物直売所 産直社の

■協議会アドバイザー

- ・花巻農林振興センター
- ・中央農業改良普及センター
- ・花巻農業協同組合
- ・花巻市

■活動内容

- ・産地直売所相互の情報交換に関する事
- ・産地直売所活動に必要な調査・研究に関する事
- ・その他目的達成のために必要な事項
- ・スタンプラリーの企画・開催



生産者

研修会等で学んだことを生かした生産・販売技術の向上により所得向上につなげる。